

締結システム × 協働ロボット

小型双腕ロボとタツグ

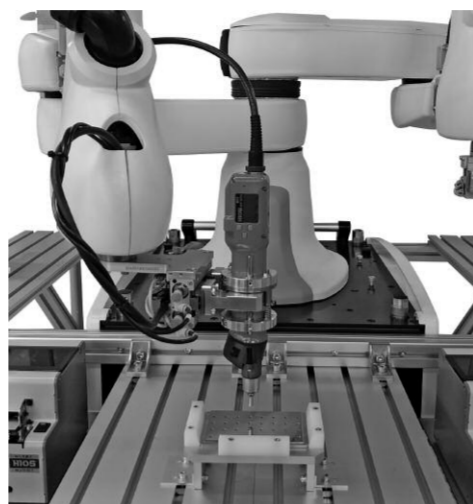
「インタトルク」と「熟練工」で

ハイオス

㈱ハイオス(東京都墨田区、戸津勝行社長)は、締結時にぐらつきが少ない特殊リセスねじ「インタトルク」と締結情報をリアルタイムに検出する「熟練工」ドライバを双腕型ロボットのレンタルビジネス企業と協業して、締結自動化システムのパッケージ戦略を本格化する。

自動化との相性が良く

「インタトルク」は、ビット側のスローポイントと呼ばれる「ガイド&ロック機能」を担う先端部を差し込む穴をもつ特殊ヘキサロビュラリセスのフラスナー。締結時のぐらつきを防止して横締めでもねじが傾かず落ちないといった特長をもつ。また、オフセットの



「熟練工」(BLG-BC2シリーズ)ドライバは、モーターの回転パルス数をカウントして、締結エラーをリアルタイムで高精度に検出。ダイレクトティーチング機能により、ねじをワ



duAroとハイオスの締結システム

クに数本締め付けるだけで、適正な締結をドライバ自身で自動認識する設定の簡易性が大きな特長となっている。

同社は「インタトルク」+「熟練工」の締結システムと、製造現場で省力化の切り札として注目されている協働ロボットを組み合わせた自動化システムの提案を進めてきた。今回、ロボットレンタルサービスを行う東京センチュリー㈱(東京都千代田区)と共同で、人共存型双腕スカルロボッ



戸津社長(新本社で)



新本社の螺旋階段

ト「duAro(デュアロ)」(川崎重工業製)による自動ねじ締めシステムを低コストで導入できるサービスを本格的に開始する。

ワークが変わっても対応できる汎用性の高さも特長。ロボット専用ドライバを使わずに人が使う「熟練工」ドライバを標準ハンドで使用することで、ロボットとドライバの相性の良さをアピールする。レンタルサービスのため、一時的な導入や本

格的な設備投資前に試験的に導入するといった活用ができた。戸津社長は省力化が注目される時代が続いてきたねてより拘り続けてきた自動化とねじの親和性について「ねじの頭を変えただけで、ロボットの小型化、低推力のロボットを使用することによるワ

ワークが変わっても対応できる汎用性の高さも特長。ロボット専用ドライバを使わずに人が使う「熟練工」ドライバを標準ハンドで使用することで、ロボットとドライバの相性の良さをアピールする。レンタルサービスのため、一時的な導入や本

ワークが変わっても対応できる汎用性の高さも特長。ロボット専用ドライバを使わずに人が使う「熟練工」ドライバを標準ハンドで使用することで、ロボットとドライバの相性の良さをアピールする。レンタルサービスのため、一時的な導入や本

1クへのタメ1シ低減、時間の削減と大きなコストダウンが見込める。ねじが安い時代は終わりを告げた。本サービスは「duAro」縮めパッケージとして東京センチュリー㈱よりサービスを開始している。

墨田区に新本社ビル

なお、㈱ハイオスは東京都墨田区の新本社ビル

に移転。5月27日より営業を開始している。創立50周年を来年3月に控え墨田区押上にて5階建てのビルを本社として構えた。1階エントランスを入ると明るいロビー内に、ねじをイメージした螺旋階段が目飛び込んでくる。3階から3階は各部署のあったオフィス。ショールームも設置する予定。3階にはルーフトラスが設けられ社内の憩いの場となる。省エネに配慮した環境にやさしいオフィスを目指した。なお旧本社(千葉県松戸市)は物流センターとして運用している。